

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日：7月22日(火)

会場：青河コミュニティセンター

参加者数：25人

◎テーマ①：安全・安心なまちづくり

【趣旨説明(青河自治振興会)】

災害対策に限らず、生活、教育、子育て、福祉など、青河地区の住民すべてが安心して暮らせる地域づくりについて意見交換したい。

参加者の発言	市の発言	備考
<p>安全・安心なまちづくりについて、5年前に始まった市道酒河81号線の市道改修が進んでいない。開始時では4年で終了するとも聞いていたが、ずっと通行止めになっている。危険な箇所という認識のもと、市道の拡張工事をされているが、今後10年～15年ぐらいかかるのではないかと状況で進められており、町民としては全く納得できない。</p>	<p>市道改良について、地域の皆さんにはご迷惑をお掛けしている。これまで、西日本豪雨災害をはじめ、令和2年、令和3年と災害が続き、農地も含めて、河川や道路にも被害が生じたため、市では、災害復旧を優先して、いろいろな道路改良工事などを進めてきた。このことが、市道酒河81号線の市道改良に遅れが生じた一つの要因である。また、過疎債という財源を活用して道路工事を進めているが、過疎債は年度に応じて額が違って来る。できる限り、地元の意向に沿えるような形で工事を進めていきたいが、様々な要因があることをご理解いただきたい。今後も、しっかりと努力をして、できる限り進めていきたい。</p>	
<p>・青河地区では、自主防災会をつくり活動している。西日本豪雨など、想定外の災害が起きた場合、小学校やコミュニティセンターが避難場所になっている。しかし、2018年の水害時には、コミュニティセンターが浸水しそうであった。市内一律で小学校やコミュニティセンターが避難場所になっているが、各災害状況に応じて避難場所を再度検討すべきである。庄原市では、以前から、地震や洪水に分けて避難場所を指定されている。 ・避難場所に行くことが危ない場合は違う場所に避難するなど工夫をしている。しかし、それを、住民自治組織連合会で決めるのではなく、専門的知識のある方が、ケースに応じた適切な避難場所を設定された方がいい。市内では、地震や洪水など災害に応じて避難所を分けていないのか。</p>	<p>・各地域の自治会や自主防災会の皆さんと意見交換をしながら、このコミュニティセンターは基幹避難所にはふさわしくないなどの声があれば、基幹避難場所を変更するなどの柔軟な対応をさせていただいてきた。引き続き、本日のような機会を通じて、地域の皆さんと、今の避難場所が適切なのか、あるいは、それぞれの災害に応じた避難場所の設定になっているのかなど、意見交換をしながら、必要であれば修正していきたい。いろいろな機会で、防災、減災に触れていた中で、防災意識の向上をしっかりと積み重ねていきたい。 ・三次市では、災害から守るための緊急避難場所と、災害が発生した後に、一定期間、避難をして生活していただく指定避難所の2種類を指定している。そして、地震のときはいいが、洪水や大雨のときには使えない場合もあるため、防災計画に基づいて避難所を土砂、洪水、地震に分けて指定している。 ・市内全域でハザードマップの確認をさせていただいている。現在の避難所は、地域の方と話をしながら指定しているが、避難所までの道のりが危険な場合もある。市としても、地域への出前講座で説明させていただいている。 ・青河コミュニティセンターがどのような避難場所になっているのか確認させていただき、今の状況はふさわしくないという部分があれば、相談させてもらう。地元の皆さんの中には、洪水と地震のときにおいて適切な避難所は違うと感じられていると思う。危機管理課が中心となり、地元と意見交換をしながら、柔軟に対応させてもらいたい。</p>	<p>【住民自治組織へ回答】 市では、地震・洪水・土砂などの災害の種別に応じて避難所を指定している。今後、避難所看板に絵文字を入れるなど、どの災害に適しているのか一目で分かるように工夫するよう考えている。また、基幹避難所・補助避難所については、地域のご意見を踏まえて変更も可能である。地域の皆さんが、適切な避難行動をとることができるよう、引き続き協力をお願いする。</p>
<p>今後、自分の子どもを青河小学校に通わせることを楽しみにしていたが、酒河小学校に統合される予定と聞き、心を痛めている。青河小学校の生徒が少ないという問題は承知している。その中で、規模適正化の説明をされ、小規模校中9校から、いろいろな問題が抽出されたはずである。一方的に合併という形になった経緯を教えてください。</p>	<p>・先月の終わりから今月の初めにかけて、保護者の皆さん、地域の皆さんには、学校のあり方に關する基本方針の策定経過と内容について、1回目の説明をさせていただいた。いろいろな意見や質問をいただけており、整理をしているところである。 ・今回、基本方針を策定した理由は、社会状況が変化している中で、三次市をこれからも持続可能なものにしていくためには、三次を大切に思える人を育てていくことが一番重要であるからである。令和5年に策定された市総合計画に合わせて、市教育委員会が中心になって、ひとつづくりという観点で、「学びの共創プラン」を策定し、昨年度からスタートしている。また、市民の皆さんや専門的な先生なども含めて、様々な見地から意見をいただくとともに、市全体で行った、保護者や子どもたちへのアンケート調査の中でいただいた意見を踏まえて、策定した経緯がある。 ・最終的に再編することにまとめた理由は、一定の集団活動が可能になる環境は、子どもたちの学びや育ちにとって必要であるからである。一方で、学校のあり方を考えた時に、一人ひとりが本当にやりたいことをやらせてあげたい。勉強が苦手な子もいれば、勉強もつらいという子もいる。集団でやりたいということもあれば、じっくり一人でもやりたいという子もいる。しかし、一人ひとりに応じた学びができることとあわせて、いろいろな友達と一緒に様々な経験をする、いろいろな考えをぶつけ合う、様々な関わり合せて学んでいくという、いわゆる「協働的な学び」を一緒にやっていく環境を市全体で整えていくことが必要と考え、今回、基本方針の策定委員会で、一定程度まとめさせていただいた。 ・極端に少ない人数による学びには、メリットもデメリットもある。様々な体験をするために、工夫していくことが常に必要となる。今回、三次市全体として、小学校については1学年10人以上の単式学級で学ぶ環境を、中学校についてはクラス替えをして、もっと広い人間関係を作っていくことができる環境を作っていくことを基本としている。その中で、どうしても集団の中では学校に行きにくい子ども、あるいは、集団の中で一緒にやっていくことが苦手という子どもには、それに対しての学びの環境を市全体で整えていく。このように、市全体を俯瞰して、学校再編を基本方針として整理させていただき、今、説明をさせていただいている。 ・全ての資料を見ていただくことはなかなか難しいことから、保護者の皆さんや地域の皆さんに対する説明をするため、地域を回らせていただいている。また、青河地区にも、次の機会を話させていただき、この前いただいた意見も踏まえて、協議させてほしい。どのように工夫すればいいのか意見交換をさせていただきたい。</p>	
<p>複式学級が吸収される形での統合が一方的に決まった経緯と考えを説明してほしい。中規模校の問題点をきちんと考えた上で、子どものために、子どもたちがどうしたいのかを踏まえて、過ごしやすいようにしてあげることも一つの考えである。そのような議論は尽くされたのか。</p>	<p>子どもたち一人ひとりにどのような環境が必要か、子どもはそれぞれ違うことをしっかりと踏まえて協議している。その中で、集団の中では学校に行きにくい、学校に行くことができないなどの子どももいる中で、市全体で環境を整えていくことは必要であるが、いろいろな集団での活動や学びの楽しさ、喜びを感じられるという環境も必要ではないか。社会へ出ていこうといういろいろな人々と社会の中で触れ合うこと、自分の意見をきちんといえること、あるいは他の人の意見をしっかりと聞くことが必要である。このように自立していくためには、小学校や中学校で、それぞれの段階に応じた環境を整備していかなければならない。協議を全くしていない、最終的な結論であるという一方的に話しているつもりはない。「学びの共創プラン」や基本方針の中では、具体的なアンケートや協議の内容などを踏まえてまとめている。引き続き、丁寧に時間をかけて説明をさせていただきたい。また、取組に関する質問や意見をいただきたい。</p>	
<p>・先日の川地コミュニティセンターにおける学校再編に関する説明会は、再編後の未来像が具体性に欠けていた。全く示されていない。これからどのように定着を図っていくのか具体像を持っていない中では、学校をなくしていく、まちづくりを任せるとは言えないのではないかと。その未来像をしっかりと話し合い、協議していきなさい。 ・一方的に結論を押し付けるつもりはないと言われたが、説明会では一切変更はないと発言された。配付された資料の中には、保護者、地域住民と丁寧な議論を行い、理解と協力を得て進めること、状況に応じて計画の見直しを行うことが記載されているが、これは適用しないという話であった。市民の反対があっても計画を強行する覚悟なのか、市長自身の考えを聞きたい。 ・議事録はいつ公表される予定か。見直しも含めて検討していくということでしょうか。</p>	<p>・議事録を確認していただければわかるが、説明会で「全く変更しない」とは申し上げていない。スケジュール通りに進めていくという考えではあるが、一方で、保護者や地域住民の皆さんと丁寧な議論を行い、理解と協力を得て進めていく。この方針は決定したものかという質問については、教育委員会協議して決定したものであると回答した。また、変更や訂正はないのかという質問については、保護者や地域の理解と協力を得て進めると繰り返し申し上げた。そして、状況に応じた計画の見直しは行おうかという質問については、例えば、人数の見直しが大きく変わることがあれば、状況の見直しを行っている。改めて、決して強行して進めていくことは申し上げていないことを確認させていただく。 ・皆さんの理解と協力を得て進めていく。計画の見直しは、生徒数の大幅な変動などがあれば行うと説明した。それ以上のことは申し上げてはならないということを理解していただきたい。</p>	

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月22日(火)

会場: 青河コミュニティセンター

参加者数: 25人

◎テーマ①: 安全・安心なまちづくり

【趣旨説明(青河自治振興会)】

災害対策に限らず、生活、教育、子育て、福祉など、青河地区の住民すべてが安心して暮らせる地域づくりについて意見交換したい。

参加者の発言	市の発言	備考
説明を受ける側が一方的であると感じたという事実を受け止めてほしい。	<p>・説明が不十分で、伝わっていないとすればお詫びする。</p> <p>・今年の3月に計画案を作り、議会への説明をした上で、現在、市教育委員会を中心に、各地域に向いて、地元の皆さんや保護者の皆さんと対話をさせていただいている。理解と協力を得ながら進めていく。将来の状況や見込みなどについてしっかりと説明をさせていただきながら、なぜこのような計画なのかというところを、丁寧にキャッチボールしていく。引き続き、市教育委員会を中心に、地域や学校、あるいは保護者の皆さんと、対話を重ねていくということに尽きる。</p>	
地域住民への説明より先に新聞報道が出た。報道を知った住民は、計画が確定事項だとは思えなかった。	<p>実際には、今年3月の終わりに、この基本方針を最終的に、教育委員会会議で決めるにあたり、まずは、市民の代表である議会への説明が必要であったため、その時点で議会を傍聴された報道が先行する形になった。しかし、再配置計画の基本方針については、地元の皆さんに、できるだけ間を置かず説明することが、市としての責任であると考えており、直接説明することが後になったことはお詫びする。素案の段階での説明については、一定程度の説明会を実施するとともに、パブリック・コメントも実施していた。これからも、丁寧に説明をさせていただきたい。</p>	
学校の統廃合自体に反対しているのに、前向きに検討してほしいと、廃校後の話をされても困る。市が示す「1学年10人以上」という適正規模を確保できない学校が他にもある中で、この基準を設定するのはなぜか。「適切な集団」とは何名以上か。小規模校の子どもたちを大規模な学校に集約された場合、自己負担で通学することになり、自己責任である。公共交通機関を子どもたちも使いやすいようにしてもらいたい。大規模校の教員からは、人数が多すぎて目が行き届かないという声も聞く。また、いじめや、たばこを吸うなどの不適切な行為もあるとも聞く。縦割りの集団教育も重要であり、青河小学校は残してほしい。	<p>・市教育委員会が、パブリック・コメントや、保護者の意向調査アンケートなどを踏まえて、今回の計画を策定した。教育について、いろいろな考え方がある中で、今後、答えを導き出していかなければならない。地域から学校がなくなることへの不安や、これまでどのような思いで青河小学校の存続に尽力されてきたのか、理解している。計画は決定事項ではなく、地元の皆さんと対話を重ねながら進める。まだ始まったばかりであり、教育委員会を中心に丁寧にキャッチボールしていく。皆さんの不安を少しでも解消できるよう、今後対話の機会を作りたい。</p> <p>・適正規模の人数を一つの数字で示すことは、この場では控えさせていただく。地域の実情によって違いがある。</p>	
<p>・避難場所は、地域との話し合いなしに、市が一方的に決めたものである。</p> <p>・自主防災組織には、避難場所の設定に関して、全く話がなかった。</p>	<p>避難場所については、平成30年の災害後に、自主防災組織と相談して決めたものである。その後のご意見等もいろいろあると思う。青河コミュニティセンターは川が近くにあり、洪水の場合は浸水エリアに入る。このことも踏まえて、自主防災組織と連携しながら改善し、よりよい避難場所としての準備等ができるようにさせていただきたい。引き続き、しっかりとご意見をいただき、対応できるところはしっかり対応していきたい。課題があれば、受けとめて聞いていく。</p>	

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日：7月22日(火)

会場：青河コミュニティセンター

参加者数：25人

◎テーマ②：地域資源を生かしたまちづくり

【趣旨説明(青河自治振興会)】

学校も重要な地域資源の一つ。今後10年、20年先に学校がなくなった時、市としてどのようなまちづくりのプランを描き、地域に働きかけていくのか意見を聞きたい。

参加者の発言	市の発言	備考
<p>高校を卒業して7割が地元に残ると聞くが、三次市にはどれぐらいが残っているのか。高校卒業後に地元に残る若者への支援策を考えてほしい。市の誘致活動は、成果が見えにくい。</p>	<p>・青河地区では、具体的にどのようなまちづくりをするのかについてまとめた「まちづくりビジョン」を住民の方によって作られている。自治活動支援交付金に係る報告書においても、非常に多くの独自の取組をされていることが見て取れる。各地域では、今の学校再配置計画に伴って、まちづくりをどうするのかという話が出る。学校は、子どもたちが学ぶ場所としてだけではなく、地域住民との交流の場になっており、学校を基点に地域のつながりができている。そのような中において、学校がなくなれば、その役割を担うものがなくなることから、子どもたちとの交流や、地域の歴史や文化などを伝えていく新たな取組が当然必要になってくる。このことを、新しいまちづくりの中では重点に考えていく必要もあるのではないかと。 ・もし再配置が進んだ場合、学校が担っていた交流の役割をどう補うか、跡地をどう活用するかなどを、地域の皆さんとしっかり議論する必要がある。まちづくりビジョンなどで形にしていこうというプロセスが大事である。市としても、他地域の事例紹介や研修会などを通じて支援していきたい。今年度は、まちづくりを実践されている方を講師に招いて、住民自治組織を中心に、地域の役員の方にもお声掛けをさせていただいて、研修会を4回シリーズで考えている。まちづくりに関しては、引き続き連携を図っていきたい。</p>	
<p>廃校ありきで進められているように受け取った。</p>	<p>・現在、教育委員会から地域に対して、再配置の説明が行われている中で、学校がなくなった後のまちづくりについては、まだ議論ができる段階ではないと認識している。ただし、学校の再配置後のまちづくりについて話をする機会もあるので、住民の方々も含めて理解していただき、しっかり行政も一緒に考えていきたい。 ・地域の中には学校が必ずあり、どの地域も学校を窓口にして子どもたちとまちづくりを進めてきた。計画段階ではあるが、青河地区や君田地区など、地域から学校がなくなる可能性がある。このような地域では、これからどのようなまちづくりをしていくのか。まずは、地域の特徴を生かしたことをしていただくために、各地域の皆さんとしっかり話をしていきたい。仮に、学校が地域からなくなれば、やり方を変えなければならぬが、地域に子どもたちがいて、その子どもたちとまちづくりを行うというのは変わらない。その具体的な内容に対して、市としてどのような支援ができるのか、あるいは一緒にさせていただけるのかなど、まちづくりの主役である住民の皆さんと話をしなければいけないと考えている。このことは、市役所内部でも共有している。青河地区においては、学校がなくなった後について想定するところにはまだ至っておらず、まずは学校の存否について、特に教育の観点から、説明をさせていただき、議論していただく必要があると思っている。話し合いの中で、仮定として話をすることはあるが、市として、学校がなくなることを強制的に進めているという意味では当然ない。まだ議論の途中であると認識している。一方で、まちづくりについては考えていかなければならないタイミングに来ているということも間違いない。市では、そこは並行しながら、地域の皆さんとの話し合いをきちんとしていきたい。</p>	

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 7月22日(火)

会場: 青河コミュニティセンター

参加者数: 25人

◎テーマ以外

参加者の発言	市の発言	備考
最近、市役所職員の挨拶がなくなっている。また、名札がついていない職員が多い。	—	
救急車が道を譲ってもらった際に一言感謝を伝えない隊員がいる。住民の感情を大切にしてほしい。	—	
尾道松江線の名称を決める際に、「尾道三次松江」を提案したが、決定事項ということで、「三次」が入らなかった。現在、三次市から東京に行くに際しても、広島市に出なければならず、交通の空白地帯が作られたといえる。	—	